

感染症疫学サーベイランス システム強化プロジェクト フェーズ2 (RSSE 2)

コンゴ民主共和国政府 保健省 / JICA



MINISTÈRE
DE LA SANTÉ PUBLIQUE,
HYGIÈNE ET PRÉVOYANCE
SOCIALE



2025年11月21日、RSSE2第1回合同調整委員会（JCC）の参加者一同。



1. プロジェクト概要

RSSE2（感染症疫学サーベイランスシステム強化プロジェクト・フェーズ2）は、JICAの支援のもと保健省と、コンゴ民主共和国で実施されている戦略的な取り組みです。本プロジェクトは、効果的な意思決定に向けてデータの収集、分析、活用を改善することにより、国の疫学サーベイランスシステムを持続的に強化することを目的としています。2025年7月から2026年3月までの期間は立ち上げフェーズにあたり、全26州の州保健局（DPS）におけるベースライン調査の実施を特徴としています。



3. 国内の衛生状況

コンゴ民主共和国は、度重なる感染症の流行や保健医療体制の構造的な脆弱性など、根深い衛生課題に直面しています。プロジェクトの立ち上げフェーズ中にカサイ州ブラペで発生したエボラ出血熱の再流行は、流行監視体制の強化とシステム全体の迅速な対応力の必要性を浮き彫りにしました。RSSE2プロジェクトは、財政的・物資的支援および保健衛生情報の調整を通じて、政府の不測の事態への対応を後押ししました。



5. 期待される成果

- ・ 感染症の流行や公衆衛生上のアラートのより迅速な探知
- ・ より効果的かつ適切に調整された衛生対応



2. 主な成果

2025年11月に開催された合同調整委員会（JCC）にて、関係者の出席のもとでベースライン調査の結果が発表されました。前フェーズでの経験、アクセス、都市化の程度などの客観的な基準に基づき、3つのパイロット保健ゾーン（Boma, Luozi, Massa）の選定が承認されました。その後、現地調査によって結果が確認され、キサントウで開催された承認ワークショップにおいて、各保健区のデータが詳細に分析されました。



計画策定

プロジェクトのメンバーは、日本人専門家が不在の中、コンゴ・セントラル州保健局（DPS）が主催した「年間活動計画（PAO）」ワークショップに参加しました。この参加により、RSSE2プロジェクトの活動を州の計画に組み込むことが可能となり、国主導のオーナーシップ、セクター間の連携、そして支援活動の持続可能性が強化されました。



4. プロジェクト目標

対応および評価システムを含む、地域社会（コミュニティ）主導の監視モデルを確立する。

1. パイロット保健区において、地域社会を基盤とした監視モデルを導入・実施する。
2. 州およびその機材の、感染症流行に対する準備および対応能力を強化する。
3. 感染症流行監視に関する国家能力を強化する。



コンゴ国民は、コンゴ民主共和国における流行監視体制の強化に対するJICAおよび日本政府の継続的な支援に対し、深い感謝の意を表します。このパートナーシップは、保健医療体制強化の不可欠な柱であり、連帯、相互の信頼、そして持続可能な成果の追求に基づいた協力関係を体現しています。

「すべてのコンゴ国民の健康のため、より強靱な流行監視体制を共に目指して」



MINISTÈRE
DE LA SANTÉ PUBLIQUE,
HYGIÈNE ET PRÉVOYANCE
SOCIALE

